

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスあつみ(ユニットあつみ)		
所在地	岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	令和5年12月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウィルスが第5類に移行されてから、外出をしていただけるようになりました。コーヒータケットを購入し、喫茶店へ出かけています。家族の方と外食や買い物に連れていかれたり、お友達が訪ねてこられたりしています。まだ居室へ招き入れることはしていませんが、利用者さんは親戚の方々との面会も楽しんでおられます。

今年の夏は、久しぶりに地域の盆踊りが開催されましたので、希望者の方と行ってきました。以前はバスで遠出もしていたので、これからそういった行事が再開されると利用者さんにとってもよい刺激になると思います。足腰が弱ってこられた方や認知症が進んできた方もおられますが、ホームでの生活を楽しんでいただけるよう、職員間で話し合っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症への警戒感を完全に解いているわけではないが、様々な支援がコロナ禍以前の状態へと戻り始めている。コロナ感染症の5類移行に伴い、徐々に外出支援が再開されている。

夏の盆踊りには、職員が付き添って久しぶりに参加することができた。散歩に出かけ、地域の喫茶店でモーニングを楽しむこともしばしばである。利用者全員がコーヒータケットを購入しており、常連客となっている。来月(令和6年1月)には、神社への初詣も計画されている。

評価前日のクリスマスには、各ユニットでパーティーが開催され、法人代表からプレゼントされたタンドリーチキンや、かつて喫茶店を営んでいた利用者手作りのサンドイッチが食卓を彩った。家族からのプレゼントを、サンタ姿の職員が利用者それぞれに配って終宴となった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できる喜び・自分でできる・楽しく明るい生活」を理念としており、職員は理念にそって実践している。	「できる喜び、自分でできる 楽しくて明るい生活」を理念に掲げ、利用者の能力に応じ、過介護にならないことを意識した支援に取り組んでいる。利用者同士のどんな関りも人としての感情を揺さぶるものとして捉え、丁寧に関わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から盆踊りが再開された為、出かけていった。	喫茶店でモーニングを食べたり、地域の盆踊りに出かけたりと、徐々にコロナ禍以前の支援が再開されている。多職種で構成された地域ケア会議に参加し、福祉関係者以外との交流・連携がある。独居高齢者や空き家問題等、地域の課題を検討している。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の5月から再開し、開催していなかった期間のホームの様子について報告した。	運営推進会議には、行政や地域包括支援センター、自治会長などの地域からの参加がある。会議では、ホームからの報告が中心となっている。家族の参加の呼びかけについて、検討を促されている。	運営推進会議へ利用者や家族の参加を求めること、目標達成計画の進捗状況を会議メンバーで評価すること等が、今後の課題として残る。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が日頃から市町村と連絡をとり、報告や相談をしている。	地域包括支援センターの職員から様々な活動の案内があり、運営推進会議にも毎回出席があるなど、連携を密にしている。生活保護受給者が6名入居しており、市・保護係の担当者の訪問が再開されている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、指針の整備をし、職員研修でも周知徹底している。 厚生労働省発行の「身体拘束ゼロへの手引き」を参考に勉強会を行っていく予定をしている。	職員ミーティングが毎月開催されており、その中で3ヶ月に1度、身体拘束委員会を行っている。法人代表が講師となり、「身体拘束ゼロへの手引き」を参考にして事例検討の勉強会を行っている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修でも他事業所の事例検討を参考に、周知徹底している。	法人代表や管理者が地域ケア会議に出席し、会議に参加する弁護士や医師、建築関係者等々、様々な分野の人たちから情報を取得している。その勉強会で使われた資料を活用し、職員ミーティングの中で職員周知を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方の支援は、代表者が対応している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所の方針や対応可能な範囲・転倒のリスク等について説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や面会時に、意見や要望等を聞き、ミーティングの場で話し合っている。	コロナ感染症が5類に移行となったが、感染への警戒を緩めず、家族面会は玄関に限定している。利用者の使用した日用消耗品等の精算のため、毎月家族がホームを訪問しており、その際に意見や要望を聞き取っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやホーム長会議において意見や提案を聞く機会を設けて話し合っている。	職員構成は正規職員が中心となっており、毎月の職員ミーティングの出席率も高い。ミーティングの前半部分でケア・カンファレンスを行い、後半は意見交換や職員研修に充てられている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の保持する資格に応じて給与水準・職能手当等、整備がなされており、職員も向上心を持って働いている。	ワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい職場づくりに努めている。男性職員が新婚旅行のために5日間の特別休暇をとったり、妻の出産に立ち合うために特別休暇を取得するなど、福利厚生制度が有効に活用されている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の指導の下、職員研修の中で学ぶ機会を設けているが、外部研修へは参加していない。	職員研修の年間計画が作成されており、主に法人代表が講師となって研修が行われている。身体拘束や虐待等、利用者の権利侵害に関することや、高齢者の健康、医療等に関することなどが研修テーマとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、積極的に同業者と交流し情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは行って頂き、他の利用者と助け合ってお手伝いも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞き、ご家族にも協力して頂きながら支援している。	ほとんどの利用者が、口頭で自らの意思を表出できる。食べ物の要望が多く、職員が利用者に代わって買ってきている。家族と外出した機会に、好物を食べてくることもある。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの要望を聞き、利用者の担当者がアセスメントを行い、ミーティングの場で職員全員でモニタリングを行っている。	短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定して介護計画を作成している。生活が単調にならないよう、利用者それぞれの意向を反映させて介護計画を作成している。意向に沿い、「喫茶店外出」や「夕食時の晩酌」が介護計画に盛り込まれている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌にて、身体状況や日頃の様子を職員全員で確認している。	利用者個々の記録は「生活記録」に記載し、重要な(職員周知が必要な)事項は、ユニット単位の「業務日誌」に転記している。「業務日誌」には、勤務シフトごとに休憩時間の記入欄があり、職員名と休憩時間が記録されている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに買い物へ行ったり、医療機関への受診同行や役所への手続き代行をすることがある。	生活保護受給者が6名入居していることもあり、市役所等に出向き、介護保険や生活保護の申請等を代行して行っている。コロナ感染症やインフルエンザの予防接種に関する手続きも、ホームで代行して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば協働したい		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診に加えて、緊急時の往診・24時間体制の訪問看護・総合病院との連携等、適切な医療が受けられるようになっている。	内科と精神科の2医療機関を協力医とし、内科の医療機関は月に2回の訪問診療を行っている。訪問歯科も月に2回の訪問がある。病院系列の訪問看護ステーションとも連携し、適切な医療体制を整えている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とのカンファレンスにて情報交換をしている。代表者が病院関係者と良好な関係を築いている。	利用者の入院先は家族の意向を尊重しており、予め希望の病院を聞き取っている。入院している利用者の見舞いには法人代表や管理者が出向き、退院の打ち合わせには家族も加わっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、契約時に家族に十分な説明をしている。主治医が家族に状態説明をし、事業所としてどこまで支援できるかを話し合っている。	グループホーム本来の目的に沿い、看取りをしない方針を貫いている。利用開始時に利用者、家族にホームの方針を説明し、同意を得ている。口から食事が摂れなくなった時点を目安に退居の判断基準とし、これまでにホームでの看取り事例はない。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って対応するよう周知徹底を図っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、地域の方にも災害時の協力をお願いしている。	ハザードマップ上で洪水危険警戒地域に指定されており、消防計画に加え水防計画も作成されている。自家発電機を備え、ホーム2階には備蓄品の「7年保存水」が積まれている。防災訓練は土曜日に行われることから、消防の立合いはない。	BCP(事業継続計画)が作成途中であり、早期の完成を望みたい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりの個性を大切にし、その方に合った対応をしている。	利用者尊重の基本を、「一人ひとり丁寧に話を聞いてあげる」ととし、きつい言葉を使わないよう、利用者との会話にも気を配っている。プライドに配慮して役割分担を決め、上手くできない利用者にもゲームに参加してもらえるよう声掛けしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を聞き、また表情や行動からもその思いをくみ取れるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調などを配慮しながら自分でできる事を本人のペースに合わせて行って頂いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している。食器拭きを当番制で行っている。	朝食は夜勤者が、昼食は早番職員が、夕食は遅番職員が、3食手作りの食事を提供している。折々の季節料理を提供しており、評価前日のクリスマス会には、法人代表からタンドリーチキンのプレゼントがあった。職員が切り分けて提供し、場を盛り上げた。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、食事量等調整している。献立にも配慮し、バランスよく調理している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや誘導をしている。定期的に義歯の洗浄も行っている。月に2回の歯科往診にて口腔内の状態を診て頂いている。	契約する歯科による訪問歯科診療が月に2回あり、利用者の口腔内の清潔、健康を支援している。毎食後と就寝前に、歯磨きや義歯洗浄を行っている。自身で出来る利用者もいるが、多くは職員が手伝って仕上げていく。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状態に応じた声かけや見守り・介助を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、本人の体調や気分配慮して、無理強いせずに任せている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にしている。居室の空調を調整し、気持ちよく休めるよう配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書にて確認し、把握に努めている。かかりつけの医師や薬剤師にも指示を仰いでいる。	在宅から入居となった場合に、服用する薬が多量なケースがある。約2ヶ月間、協力医が薬の調整を行って、適切な服薬となるよう減薬につなげている。協力医と連携し、ラムネ菓子等を偽薬として使うこともある。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は全員で拭き掃除を行い、洗濯物干しやたたみ、食器拭きを当番制で行っている。トランプやカルタ取りを、賞品をかけて競っている。	利用者の希望や力量を加味し、生活の場面で役割を持ってもらっている。人気の高い食器の拭き上げは当番制となっている。高齢化から、趣味や習い事の継続はほとんどできなくなっている。トランプの「神経衰弱」は、表向きで行われる。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方の希望で、外食や買い物、美容院等出かけている。以前行っていたバスでの遠足は行っていない。	毎日ではないが、地域の喫茶店まで散歩してモーニングを楽しんでいる。利用者全員がコーヒーチケットを購入しており、常連客となっている。来月(令和6年1月)には、神社への初詣を計画している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	程んどの方が自分で金銭管理ができない為、家族の方に管理して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	息子さんに直接電話をかけてお話している。 今年は、年賀状を書いて家族の方に送った。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜は穏やかに過ごせるよう、照明の調整をしている。 利用者の作品や写真を飾ったり、季節の飾り物を飾っている。	クリスマスイブに、各フロアでクリスマスパーティーが開催された。法人代表からプレゼントされたタンドリーチキンや、かつて喫茶店を営んでいた利用者手作りのサンドイッチが食卓を彩り、家族からのプレゼントをサント姿の職員がそれぞれに配った。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている。 テラスのベンチに座って外を眺めることもできる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれている方もいる。 本人なりに整理して使い勝手のよいようにされている方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・トイレ・居室等、安全に利用できるよう、手すりを付け、椅子もおいてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190100160		
法人名	有限会社マイハウス		
事業所名	グループホーム マイハウスあつみ(ユニットあさぎり)		
所在地	岐阜市朝霧町34番地		
自己評価作成日	令和5年12月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190100160-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

只今、男性4名・女性4名が入所されています。男性の方に自立されている方がみえるので、色々お手伝いをして頂いています。
 天気の良い日は、お散歩に出かけます。月2回程度、喫茶店へ行き、モーニングを食べています。階段昇降も行っています。できない方は、スクワットや廊下歩行をし、筋力低下防止を心がけています。
 お好み焼きや、焼き肉パーティーなども時々行っています。誕生会も行っています。
 お手伝い等、できる事を個々に行って頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できる喜び・自分でできる・楽しく明るい生活」を理念としており、職員は理念にそって実践している。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年から盆踊りが再開された為、出かけていった。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の5月から再開し、開催していなかった期間のホームの様子について報告した。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表者が日頃から市町村と連絡をとり、報告や相談をしている。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を開催し、指針の整備をし、職員研修でも周知徹底している。 厚生労働省発行の「身体拘束ゼロへの手引き」を参考に勉強会を行っていく予定をしている。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修でも他事業所の事例検討を参考に、周知徹底している。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方の支援は、代表者が対応している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所の方針や対応可能な範囲・転倒のリスク等について説明を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や面会時に、意見や要望等を聞き、ミーティングの場で話し合っている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングやホーム長会議において意見や提案を聞く機会を設けて話し合っている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の保持する資格に応じて給与水準・職能手当等、整備がなされており、職員も向上心を持って働いている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の指導の下、職員研修の中で学ぶ機会を設けているが、外部研修へは参加していない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、積極的に同業者と交流し情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは行って頂き、他の利用者と助け合ってお手伝いも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を聞き、ご家族にも協力して頂きながら支援している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族からの要望を聞き、利用者の担当者がアセスメントを行い、ミーティングの場で職員全員でモニタリングを行っている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌にて、身体状況や日頃の様子を職員全員で確認している。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに買い物へ行ったり、医療機関への受診同行や役所への手続き代行をすることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要があれば協働したい		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診に加えて、緊急時の往診・24時間体制の訪問看護・総合病院との連携等、適切な医療が受けられるようになっている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族とのカンファレンスにて情報交換をしている。代表者が病院関係者と良好な関係を築いている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について、契約時に家族に十分な説明をしている。主治医が家族に状態説明をし、事業所としてどこまで支援できるかを話し合っている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って対応するよう周知徹底を図っている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っており、地域の方にも災害時の協力をお願いしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者ひとりひとりの個性を大切にし、その方に合った対応をしている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を聞き、また表情や行動からもその思いをくみ取れるように努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室にテレビがある方は、好きな時間に見て頂いている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みの料理や手作りのおやつを提供している。お好み焼きや焼き肉パーティーをひらき、一緒に焼いている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取を毎食記録し、月一回の体重測定にて増減をチェックし、食事量等調整している。献立にも配慮し、バランスよく調理している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや誘導をしている。定期的に義歯の洗浄も行っている。月に2回の歯科往診にて口腔内の状態を診て頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の残存機能を生かし、状態に応じた声かけや見守り・介助を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間帯は決まっているが、本人の体調や気分に応じて、無理強いせずに任せている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムを大切にしている。居室の空調を調整し、気持ちよく休めるよう配慮している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書にて確認し、把握に努めている。かかりつけの医師や薬剤師にも指示を仰いでいる。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝はモップ掛けや拭き掃除を行い、洗濯物干しやたたみ、食器拭きを行っている。毎晩、晩酌を楽しんでおられる方もある。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方の希望で、外食や買い物、美容院等出かけている。以前行っていたバスでの遠足は行っていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	程んどの方が自分で金銭管理ができない為、家族の方に管理して頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人と、お手紙のやり取りをされている方もある。 携帯電話を持っておられる方がおり、自由に電話でお話されている。 今年は、年賀状を書いて家族の方に送った。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夜は穏やかに過ごせるよう、照明の調整をしている。 利用者の作品や写真を飾ったり、季節の飾り物を飾っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所へ移動して過ごしたり、他の利用者との会話を楽しんで頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具や衣類・飾り物等を持ち込まれている方もいる。 本人なりに整理して使い勝手のよいようにされている方もいる。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関アプローチ・建物周囲・廊下・居室等、安全に利用できるよう、手すりを付け、椅子もおいてある。トイレが分かるように看板を掛けている。		